

平成21年度第1回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会

日時:平成21年7月6日(月)12時30分～

会場:石狩浜海浜植物保護センター

出席:石川 治、瀬野一郎、松島 肇、矢口勝征、安田秀子(会長)、渡辺千秋、

事務局:有田英之(センター長)、内藤華子、唐澤治夫(市民生活部長)

会議録

1. 右岸地域・聚富市有地の保全について

有田 聚富市有地は、現在は市の管財課で所管しているが、環境保全の面から環境部署で所管する必要があるかどうかから、検討が必要。柵が老朽化してきているが、設置の必要はあるか。車の乗り入れは道路側の側溝によりほとんどないと思われ、柵での対策の必要は薄いと思うが、この地域を保全すべき理由をはっきりさせる必要がある。

松島 柵は心理的効果があるので、(老朽化しても補修するなどして)設置しておくべきでないか。

矢口 花も多く植生豊かなようだが、聚富市有地について民間団体での植生調査のデータはないのか。

有田 平成16年のセンターによる簡単な植生記録はあるが、それ以前の記録は把握していない。

瀬野 阿部(義孝)さんが資料をもっているかもしれないので、当たってみる必要があると思う。

矢口 集めて保管しておく必要があると思う。

松島 環境省の植生自然度指標でみると、海浜植生は自然度「10」に該当する。これだけの面積規模で残っている地域は希少なので、保全の必要は十分にあると思う。

ただ、海側の保安林が砂丘植生を分断しているので、砂丘植生が変わっていく可能性がある。そうすると、自然度高い海浜植生としての保全の必要性が薄れる可能性もある。

有田 ある時突然、植生が劣化してからの対策では遅いので、今から状況把握していく必要がある。

瀬野 はまなすの丘の海浜植物保護区のような保全の方法をとってほしい。

石川 保護区に指定して有名になることで、余計に人が立ち入ることも懸念。

有田 海側の砂丘地帯ではハマボウフウがなくなってきている。バギー車やRV車が走り回ることはないが、ボウフウ採りの車が多く入ってきている。

松島 左岸地域でバギー車RV車の乗り入れ規制がされると、右岸地域へ流れる可能性があることも、頭に入れておきたい。

2. 石狩浜自主規制区および石狩浜環境保全連絡会議の設置について

矢口 去年は新聞などでも、バギー車による砂丘の破壊が大分取り上げられたが、乗り入れの数は減ったのか。

有田 去年はあまり減った感じはしなかった。今年は、これまでのところ、週末の天気が悪い日が続いたこともあり、少ない。

平成4年から市で車乗り入れ防止の柵を設置するようになってから、侵入車とのイタチゴッコが続いている。そろそろもう一步踏み出した対策が必要かと考える。

石狩市単独ではできることは限られているので、この地域の管理者間で連携して、海水浴場西端から三線までの対策に臨む必要があるということで、石狩浜環境保全連絡会議を設置した。

矢口 観光協会や NPO も交えて話し合う場はないのか。

有田 今回設置した石狩浜環境保全連絡会議は、今は行政だけが構成員だが、将来的には行政以外の団体も含めて、一同で保全について話す場としての協議会を目指している。

市で柵を設置している区域は、今年、看板と鋼管杭で強制的に排除するようにしたが、それでどれだけ守られるのか、様子を見て将来的に保全区の検討をしていきたい。

矢口 どうして柵の中に入ったらいけないのか、わからない人が多いと思うので、「植物の自生地」として設置してある看板はよいものと思った。

もっと大きいものなどを、入りやすい場所に設置すべき。「価値のある植生だ」と強調すべき。

瀬野 砂丘の上に海から見えるように看板を立てるのがよいと思う。

矢口 今まで見られていた植物が見られなくなっているということも強調する必要がある。

3. 地域交流事業「ミニフォーラム」の開催依頼について

有田 地域間で保全活動について情報交換する、交流会を各地で持ちまわりで開催してきたが、他地域の保護活動、研究に関わっている人と情報交換、さらに情報発信を目指したいとの要望があり、来年、石狩でのフォーラム開催はどうか、との依頼があったので話し合いたい。継続して開催していくには、についても考える必要がある。予算措置が必要となれば、何回か話し合う必要がある。

矢口 サロマ湖、霧多布などの保護団体との交流はこれまでなかったのか。道内の他地域の団体の活動状況聞くだけでもよいのではないかと思う。

安田 石狩で活動している市民団体は、あまり他団体と交流する意識が弱いと思う。交流の要望はあまりないと思う。

松島 石狩市で開催するのはよいが、他地域に移った場合に、同様に開催するのは難しい面があると思う。

有田 単発(単年)で開催する意味があるのか、ということも考えなければならない。

安田 専門家から学ぶ場は必要と思う。他地域の団体も同様と思う。

有田 去年、造園学会で海浜植物保護のミニフォーラムを保護センターも会場になって開催したが、あのような形のフォーラムはどのくらいの頻度で開催されるのか。

松島 造園学会の自由集会として去年やり始めたばかり。今年は東京で開いた。これからは毎年、学会とあわせて全国を回る予定。

安田 このフォーラムを追っかける形で、毎年参加することはできないだろうか。

有田 この(造園学会自由集会の)フォーラムを、活動発表の場にできないか。
フォーラムと交流会とを分けてもよいというのであれば、交流会は民間ベースで進めた方が良いのでは。石狩で行うのであれば、場の提供は可能。

松島 造園学会のフォーラムは、交通費は自己負担だが、市民団体の方に参加いただいて、活動の様子を話していただくのは歓迎する。毎年5月末に開催。
保護センターは、全国の活動団体を集約し、メーリングリストを流すなどの役割を担っていただければ、と思う。

4. その他

有田 はまなすの丘の木道のあずまや付近までの延長について、春の段階では、河川管理者から延長の要望は受け入れられないとのことだったが、最近になって、再び着工してもらえる可能性がでてきた。

安田 実施となれば着工時期はいつか。

有田 オフシーズンでの要望をしている。コース上の植生移植をお願いすることも出てくるかもしれない。

以上

確認しました。

平成21年8月5日

石狩市石狩浜海浜植物保護センター運営委員会 会長 安田秀子